

第6章

貸借対照表

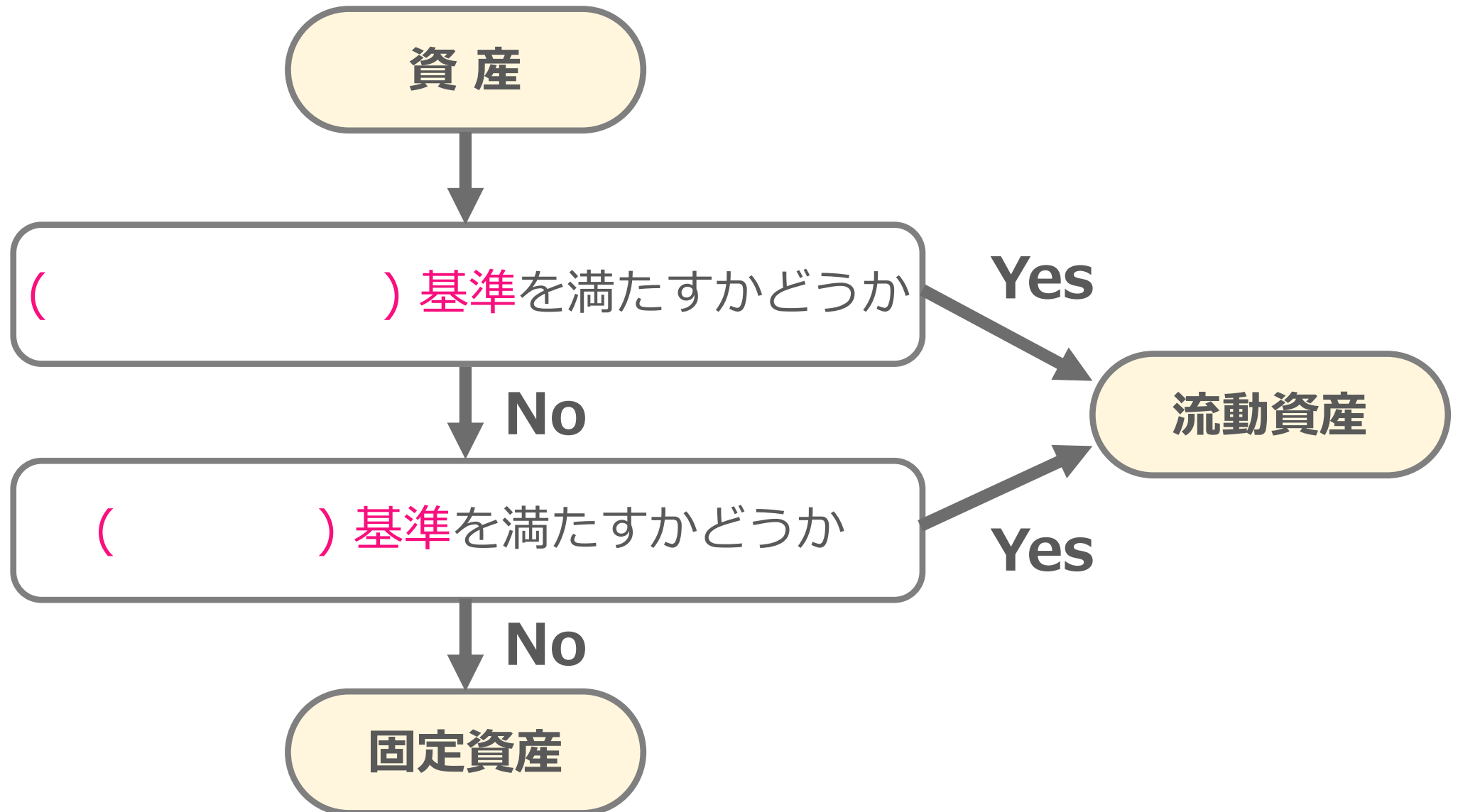
- 9 貸借対照表とは何か (p.54)
- 10 資産①—流動資産と固定資産 (p.58)
- 11 資産②—固定資産の3区分と繰延資産 (p.65)
- 12 負債 (p.71)
- 13 資産と負債の評価 (p.75)
- 14 純資産 (p.81)

1 貸借対照表とは何か

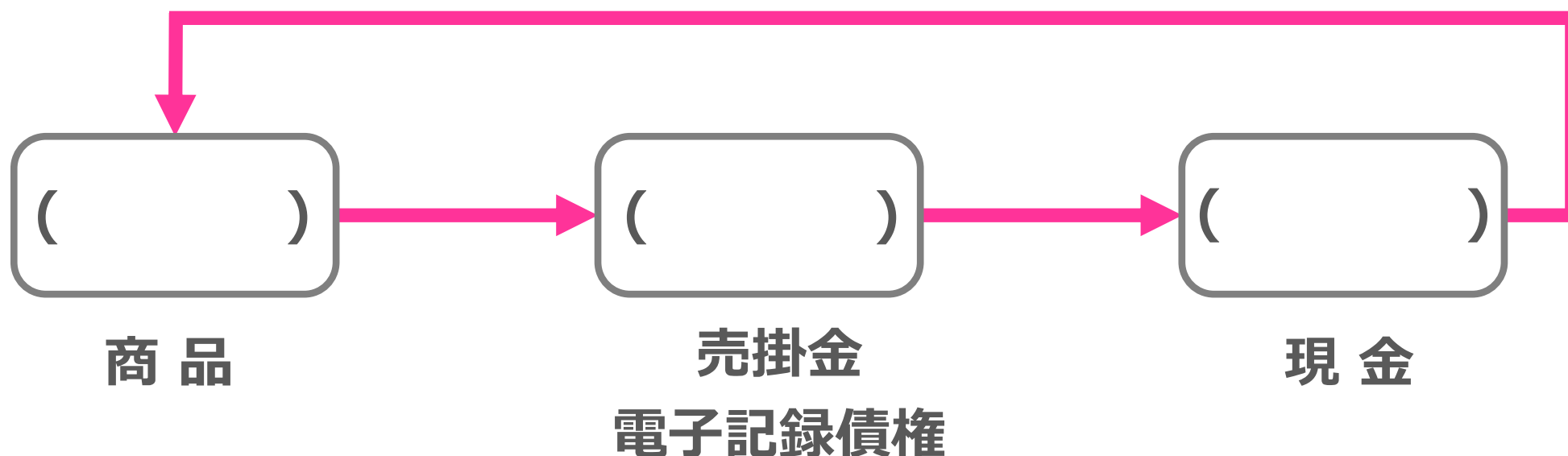
貸借対照表は、ある企業のある（ ）における資産、負債、純資産で測定した、（ ）を明らかにする計算書

資産	過去の取引または事象の結果として、企業が支配している（ ） →企業が保有しているもの ex. 現金、土地、建物、取引先から代金を回収する権利
負債	過去の取引または事象の結果として、企業が支配している（ ）を（ ）もしくは（ ） →何かを引き渡さなくてはならない義務 ex. 借入金、取引先への支払義務
純資産	（ ）の差額 ex. 株主からの出資、過去から現在までに獲得した利益

1 資産の部における2区分



2 正常営業循環基準とは何か



企業の営業取引により、()の一連の流れに含まれる資産には、正常営業循環基準が適用され、流動資産とされる

3 無形固定資産

● のれん

A社は、150百万円を支払い、B社の株式100%のM&Aを行った。
B社の資産（時価）は200百万円、負債（時価）は100百万円、
純資産（時価）は100百万円であったとする。

B社の貸借対照表（単位：百万円）

資 産 200	負 債 100	のれん ()	} ()百万円 の支払い
	純資産 100		

1 負債の部における2区分

貸借対照表

資 産	() 負債
	() 負債
	純資産

() 基準
() 基準

2 正常営業循環基準とは何か



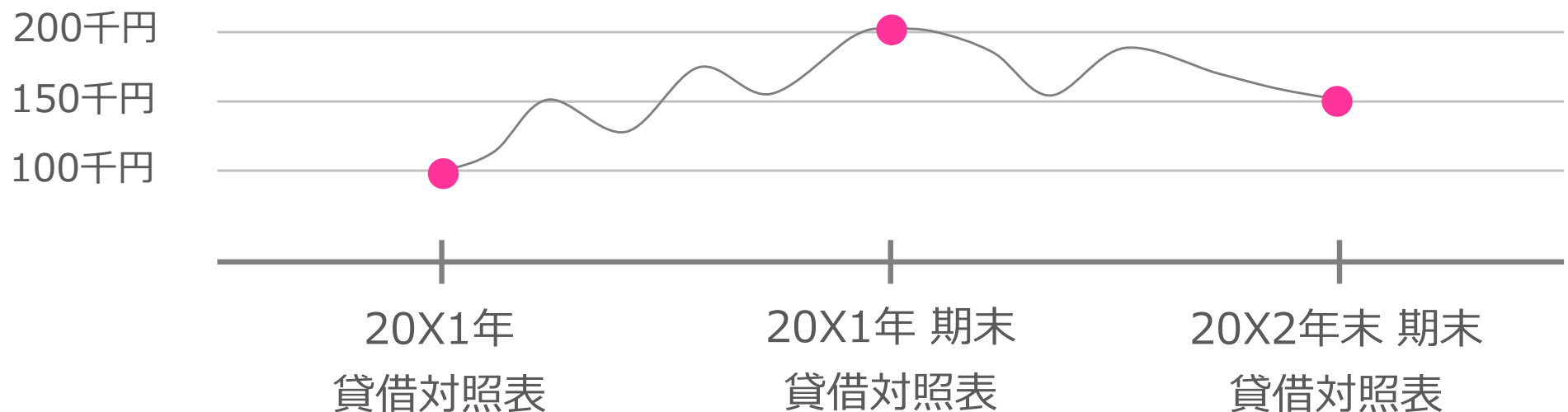
() 商品や材料を仕入れるのと同時に支払いを行うのではなく、後日支払いを行うことを約束した場合に発生するツケ

() 買掛金などの金銭債務を電子化したもので、電子データなので紛失や盗難といったリスクが低く、債務の取引をオンラインで効率的に行うことができる

1 資産の評価

- **時価** … その資産のある時点における公正な評価額

売買目的有価証券の金額



有価証券 ()	

有価証券 ()	

有価証券 ()	

その時点の有価証券の金額を、貸借対照表上に () として表示

2 取得原価

- 商品評価損 … 商品の正味売却価額が帳簿価額よりも低い場合に生じる差額

ex. 帳簿価額1,000千円の商品について、
正味売却価額を確認したところ、800千円であった。

帳簿棚卸
(帳簿上の金額を確認)

貸借対照表

商 品	
1,000千円	

商品評価損
()千円



実地棚卸
(実際の正味売却価額を確認)

貸借対照表

商 品	
()千円	

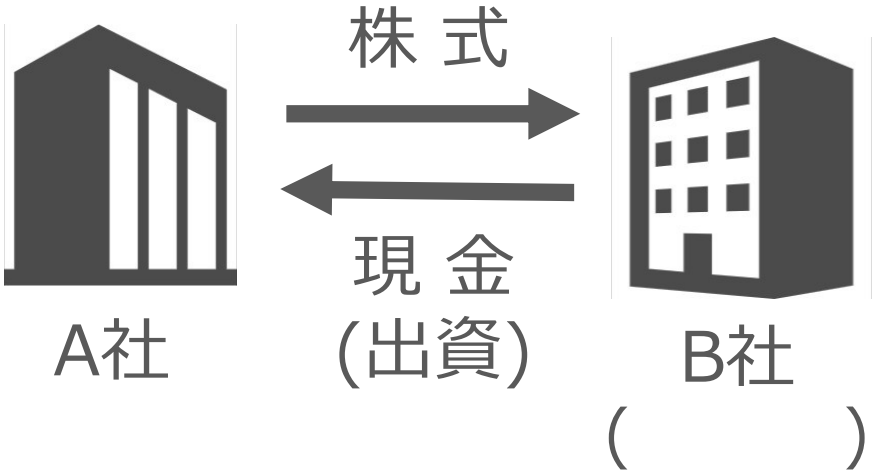
2 株主資本

● 資本金 … () から払い込まれた金額

A社が、株式を1,000円で1,000株発行し、
株主から現金1,000,000円の出資を受けた。

A社 貸借対照表

資 産	負 債
	株主資本
	資本金 1,000,000
	評価・換算差額等
	株式引受権
現金 1,000,000	新株予約権



本節では、資産と負債の差額である
純資産の部について学習しました

- 純資産の部（個別貸借対照表）における4区分について、理解できましたか。
- 純資産の部（連結貸借対照表）における非支配株主持分という区分について、理解できましたか。
- 純資産の部に含まれる項目について、理解できましたか。